

## 研究主題 「かかわり合う力の育成」

## 副題 「あい」のある学びを目指して

## (1) 主題設定の理由

本校では平成29年度より研究主題を「かかわり合う力の育成」とし、児童が「かかわり合い」を通して、「友だちと勉強したらできるようになった」「授業の中で友達と相談するのは楽しいな」と実感できることを目指して研究を重ねてきた。昨年度は、児童のかかわり合う力を伸ばすために、副題を「主体的・対話的で深い学びを育む授業の創造」とし、かかわり合いの前提となる「考えを進んで表現する手立て」を視点として研究に取り組んだ。

1年間の授業実践を通して、考えを持つ場面では、児童が考えたいくなるようなしかけをすることにより、自分の考えを書こう、表現しようとする姿が多く見られた。なかなか考えを持っていない児童に対しては、ヒントカードや既習掲示などのアイテム、見通しを持たせたり、自分事として捉えさせたりするといったアプローチが有効であった。

考えを交流する場面では、「何のための交流なのか」目的を明確にすることによって、交流への意欲や自信を持たせることができた。「分からないところがあったから、考えが持てた友達の話を聞く」、「様々な視点からの考えに対して、どの見方が最適なのか考える」というように交流することで児童が得られるものをはっきりさせることも有効であった。

まとめやふり返りの場面では、その時間のキーワードを児童に考えさせてまとめにつなげることで、自分でまとめを書くことができるようになってきた。また、「わとこ」のふり返りの視点を持たせたことで、ふり返りが苦手な児童の一助となった。

一方、児童の実態として、児童アンケートの「自分にはよいところがある」の項目における肯定的評価の割合は前期79.9%、後期79.6%であった。少しずつ改善傾向にはあるが、まだまだ学びに対して受け身で、自分に自信が持てない児童が少なくない。また、自分の考えを書こう、表現しようとする姿は確実に増えたが、自信をもって説明したり、興味をもって傾聴したりする姿にまで至っていない。すなわち、本校が取り組んできた「みそのびスタイル」に沿って考えると、「考える・書く」では、自分の考えを持ったり、書いたりすることはできるようになってきた。「まとめる・ふり返る」でも、キーワードを使ってまとめ、分かったことをふり返ることもできるようになってきた。しかし、「交流する・かかわる」では、課題が見られる。

そこで、児童一人一人が自分の考えを自信をもって友達に伝え、聴いた友達はその考えを受け止め、自分の考えに活かすといった、児童のよりよい学び合いを目指す。教師は、学習のコーディネーターとして、発話を減らし、児童に挙手をさせて発言させる。児童と教師とで児童の発言に感動する。この学び合いの積み重ねにより「勉強してよくわかった」、「できるようになった」と達成感や満足感を得られるようになるのではないかと考え、副題を「『あい』のある学びを目指して」とした。この学びを目指して授業研究・授業実践を積み重ねることで、研究主題の「かかわり合う力」をさらに伸ばすことができるのではないかと考える。

## (2) 研究主題・副題の捉え

### 研究主題 「かかわり合う」とは

「かかわり合う」とは、児童が学習課題について自分の考えを持ち、それを発表したり友達の考えを聴いたりしながら、自分の考えを深めたり、広げたりすることと考える。具体的には、以下のような姿である。

- 友達の話を聴いて、自分の考えを書いたり話したりする姿
- 友達のがんばりを認めたり、応援したり励まし合ったりする姿
- 友達の意見や活動を自分の学習に生かす姿

### 研究副題 『『あい』のある学び』とは

「あい」は「I (自分)」と「相」の意味を含んでいる。授業の中で「一人一人が自分の考えを持ち」、相手を意識して「反応し合い」ながら、友達同士で「話し合う」ことで、友達の考えを自分の考えに反映していく学び。

## (3) 目指す授業

児童の素直な反応で互いに認め合い、交流場面で児童の発話につながる授業

## (4) 研究の重点

全員が相手意識をもって伝える手立て

「あい」のある学びの素地を養うために、まずは「自分の考えを相手に自信をもって伝える」「自分の考えを相手にわかりやすく伝える」力を高める。相手意識をもって伝えるためにどんな機会を設定することが有効かを研究していく。具体的には、自分の考えを伝えたい導入の工夫、ペアやグループなどの場の設定、発言をつなげたり広げたりする教師の発問などが考えられる。

## (5) 全校の取り組み

相手意識をもって伝えるためには、児童一人一人の話す力・聴く力が基盤となると考える。「はななお」と「きくは」の合言葉で児童とともに話し方聴き方をレベルアップすることを目指す。

「伝わる話し方～**は****な****お**さん

は：はっきり  
な：ながさ  
お：おわり

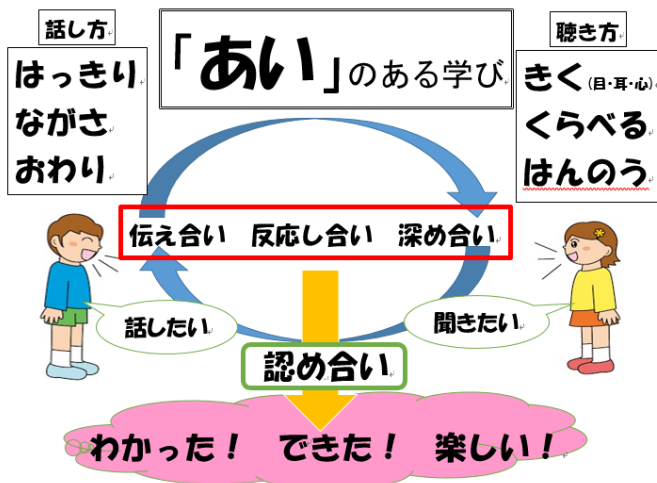
「理解する聴き方～**き****く****は**さん

き：きく(目・耳・心)  
く：くらべて  
は：はんのう

反応名人

「そうか」  
「いいねー」  
「ふーん」  
「なるほど」  
「へえー」  
「すごい」  
「さすが」

児童への指導は、低・中・高学年でそろえる。例えば、話し方の「ながさ」は、「1文の長さに気を付ける」や、「つなぎ言葉をつかう」。「おわり」は「終わりまで話す」や「終わり(結論)から話す」。聴き方の「きく」は「目と耳と心」を傾けて「聴く」、「くらべて」は、「自分と比べて」や「友達同士と比べ



て」などが考えられる。

「きくは」さんの**は**(反応)については、「反応名人」を例示し、児童同士の素直で多様な反応を価値づける。

また、左図を学級に掲示し児童とともに意識して取り組む。話し方や聴き方については、学級全体としてできた項目に印をつけて評価し、学級での高まりも共有する。

月末には、「『はななお』さん『きくは』さんを使って、学びを深めることができたか」の達成状況を調査し、全校で「あい」のある学びを目指す。

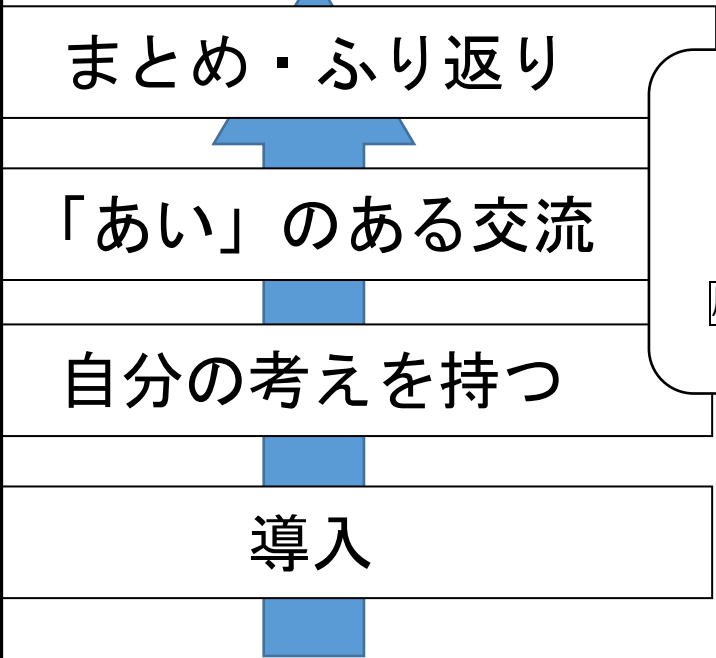
(6) 研究構想図

学校教育目標 未来をたくましく生きぬく人間の育成～「笑顔いっぱいの学校」～

めざす児童像  
やさしく 思いやりをもって 人とかかわる子  
かしこく 進んで学ぶ子  
たくましく 健康に関心を持ち、心と体を鍛える子

**研究主題 「かかわり合う力」の育成**  
副題 「あい」のある学びを目指して

重点  
**全員が相手意識をもって  
伝える手立て**



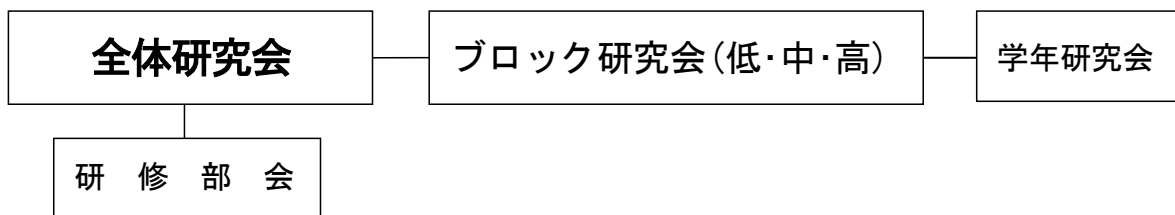
話し方  
聴き方  
反応名人

**学習基盤「みそのびスタイル」**  
姿勢 あいさつ チャイムスタート  
家庭学習 (1～3年=30分  
4年以上学年×10分)  
学習用具 丁寧な文字

- 生指
- ・安心して発言できる温かい学級
  - ・エンカウンター
  - ・礼儀
  - ・食育
  - ・姿勢体操

- 特活
- ・他学年の前で発言する場の設定
  - ・たてわり活動
  - ・行事、委員会、クラブ
  - ・あいさつ運動
  - ・体力作り・スポチャレ

(7) 研究組織



(8) 研究授業について

- ・学級担任の研究授業は**学年内で、全体研またはブロック研授業と学年研**を行う。級外・専科は、担当の教科とする。特別支援の先生は担当学年を中心に授業を行う。
- ・**全体研究授業(3本)及びブロック研究授業(3本)においては、外部アドバイザー(助言者)を要請**し、指導・助言を受けて、研究を深める。また **学年研においても積極的に助言者を要請する(校内研修サポートを活用)**。
- ・全体研究授業は低・中・高から各1名ずつ行う。(提案授業も含む。)
- ・ブロック研究授業は全体研究授業担当ではない低・中・高の学年から各1名ずつ行う。
- ・それ以外の先生は、学年研究授業を行う。
- ・全体研究授業及びブロック研究授業は、ブロック研究会を中心に指導案を立てる。
- ・**全体研・ブロック研及び学年研では、事前検討会・事後授業整理会を行う。**
- ・**研究授業については、教材研究という視点も含め、すべて違う単元で行う。**

令和2年度 年間計画		低学年 (人) 全1 ブ1 学7		中学年 (人) 全1 ブ1 学6		高学年 (人) 全1 ブ1 学7	
月	内容等	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5月	全体研 提案授業					◎山内 理科	
6月	ブロック研		岡本 算数	沼田 算数		守護 学活	○東か 体育
7月			荻野 生活	平野 道徳			川合 算数   番井 理科
9月	全体研	◎寺地 算数			中川 書写   高田 算数		
10月	ブロック研 学校訪問	本田 算数	山本 算数	○鹿野 体育	北岸 国語	村田 音楽	
11月	ブロック研	佐藤 国語	○小酒 国語   川原 自立活動			沢田 国語	吉野 社会
12月	全体研	東ま 国語		岡田 算数	◎佐内 国語	明神 算数	
1月	予備						